

丸山遺跡土坑墓内出土縄文土器



〔指定年月日〕平成一四年二月一三日
〔種別〕有形文化財(考古資料)
〔名称〕丸山遺跡土坑墓内出土縄文土器
〔点数〕三点
〔所有者等〕杉並区教育委員会
〔所在地等〕阿佐谷南一―一五―一

丸山遺跡土坑墓内出土縄文土器

丸山遺跡は善福寺の右岸台地上に位置する縄文時代早期から中期、中世の包蔵地として知られている。

これまで民間の開発に伴う小規模な発掘調査が行われてきたものの、遺跡の範囲や詳細は不明であった。

しかし、平成一二年（二〇〇〇）の発掘調査では平安時代（一〇世紀前半）の住居跡一軒と縄文時代中期後半の深鉢形土器を埋納した墓Ⅱ土壙二基が発見された。

この二基の土壙は平面形態がそれぞれ小判形、深さが四〇～五〇cmを計るものであり、一号土壙には西側部分に胴部以下を人為的に打ち欠いた一個体の深鉢土器を正位に、二号土壙には西側部分に二個体の深鉢土器を横位に埋納していたものである。

このうち、二号土壙内に落ち込んでいた土壙、土壙外周辺の土壙、出土した土器内部の土壙を試料として、それぞれ脂肪酸分析並びにリン酸分析を実施した。分析結果では、埋納されていた土器内部土壙は、周囲の土壙と比べてリン酸数値が異常に高いことがわかり、このことからこの土器の内部には「人骨を含む何らかの骨」が納められていたことが証明されたのである。

土壙内に遺体か遺骨のどちらを納めたのかは解らないが、縄文時代中期（約四三〇〇年前）に少なくともこの時期に個人を葬る行為が存在したこと、複数の土壙が存在しているこ

とから日常的な集落の外周地域に非日常的な墓域が設定されていたことが示唆できよう。

自然科学分析を行った同様な形態をもつ土坑は区外の周辺遺跡においても見受けられるが、分析によって、本事例のように墓であることを肯定しうる結果が得られた事例は少なく、貴重な資料となり得るものである。

【文化財所在地】

